



## 入学を祝して

歯学部長 前田 健康

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新潟大学歯学部に入學された皆さんに、新潟大学歯学部の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。また保護者ならびにご家族の皆様にも心からお慶び申し上げます。皆様方のご期待にそえるべく、新潟大学歯学部で新入生の皆さんの能力をさらに大きく伸ばすことができるよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。新入生の皆さん、我々教職員ともに、日々進歩する歯科医学、口腔保健医療・福祉学を学び、新潟大学歯学部の新しい歴史を築いていきましょう。

新潟大学歯学部の強みとして、「問題解決能力を持った歯科医師養成と国内外の人材養成モデルの構築」、「口腔のQOL向上を目指した基礎・臨床研究」、「有病・高齢者への対応や歯科再生医療の実践」があげられています ([https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2014/04/28/1341977\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/04/28/1341977_01.pdf))。新潟大学歯学部の教育目標は、「包括的医療を行うことのできる有能かつ感性豊かな歯科医師の育成、歯科医学発展のために指導的な人材および保健・医療・福祉に貢献する専門職業人の育成」であり、「学生自身が自ら学ぶ」ということを教育の柱としています。君たちがこれから新潟大学歯学部で学ぶ講義、実習の内容は社会に出るときのスタートラインに立つための内容でしかありません。歯科医療人、口腔保健・福祉医療人として長い人生を過ごしていくには、日々進歩する学問を常に修得する必要があります。そのためには自ら学んでいくという態度が不可欠です。医療・福祉を目指す者にとっては、問題を発見し、自ら学習し、問題を解

決していくという学習形態（問題発見・解決型学習）が望まれます。

昨年の中国・武漢を端緒とする新型コロナウイルスの感染は、日本はもとより世界中に拡大しています。感染拡大防止のため、教育活動も含め、日常生活にも大幅な制限が加えられています。本学でも6月中旬までの第1タームはオンライン講義等による非対面型講義の実施、すべての実習・演習の中止ないしは延期、諸行事の中止となり、第2ターム以降、対面型実習等の実施の緩和がなされましたが、まだ通常の教育活動には戻っていないのが現状です。このような環境の中、私ども教員は通常と同じ教育効果をあげるべく努力しているわけですが、教員の力だけで今まで以上の教育効果をあげることができるかは、はなはだ疑問です。教育とは教員から学生への知識のみの教授とみなしがちです。辞書をひもとくと「教育とは知識・技能を修得させたり、人間形成を図ったりする目的で人に様々なことを教えること」とある一方で、教育を成功させるには被教育者（学生）の重要性も指摘されています。白石（2013）は「教育」は教えられる者がその教える者の行為やその内容を受け入れることによって、はじめて成り立つ（白石崇人：『幼児教育とは何か』幼児教育の理論とその応用1、社会評論社）と記しているように、教育とは教員と学生の共同作業です。

「明けない夜はない」という言葉があります。これは周知の通り、「苦しい時期を耐え忍べば、必ず明るい状態になる」という意味です。このコロナの時代、新入生のみなさんはどう過ごしたらよいのでしょうか。2020年5月22日の朝日新聞の天声人語に以下のようなコラムが載っていました。「かの万有引力の法則は、自粛生活から生まれた。

英国でペストが猛威をふるった17世紀、若きニュートンはロンドンを離れて郷里の村へ避難。わずか1年半の間に、引力のほか微積分と光学という画期的な発見をする。」「自粛中のニュートンは屋間、農場の納屋にこもった。穴から差し込む陽光は白いのに、壁に映るのが七色なのはなぜだろう。考え抜いた末、光の正体は屈折率の異なる線だと発見する。」そして、このコラムは「ここは発想を転換し、長い巣ごもり生活を前向きに受けとめよう」と続けています。

新型コロナウイルスの感染拡大で、政府から新しい生活様式が提示されています。これを機会に新入生の皆さんもこれまで受けていた教育から新たな教育に転換してみましょう。試験の前に丸暗記した事柄は試験が終われば忘却の彼方であったという経験をしたことがあることでしょうか。小・中・高校では教師から与えられた教材をひたすら暗記・学習し、試験に臨むという受動的な学習スタイルでした。しかし前述したように、これからの長い人生には自ら学び続ける生涯学習という観点が必要とされます。赤ちゃんがお母さんから食べ物もらう、いわゆる spoon feedingから、自ら食材を見つけ、調理していくself-cookingに転換していかなければなりません。このような学習形態の転換のために、本学部では早くからProblem-based learning (PBL)チュートリアルという学習方法を導入しています。このPBLチュートリアルにおいては教員は学習者の補助者にすぎず、学習の主体は学生であるという概念で、学習が進んでいきます。このPBLチュートリアルは自ら課題を見つけ、自分で調べ学習していくというスタイルです。例えば、ウイルスという言葉があれば、「ウイルスとはなにか、その種類は」「どのように増えていくのか」「どのように感染していくのか」「ヒトは感染に対してどのように防御しているのか」など、一つの事柄に対し、いろいろな疑問が湧き出て、それを知るとまた別の疑問が出てきて、指数関数的に知識が増えていくという学習スタイルです。この例でも分かるように、このPBLチュートリアルでは従来の〇〇学という学問の壁を乗り越え、いろいろな分野の

勉強をしていきます。逆に言うと、〇〇学のPBLチュートリアルはありえないのです。この新型コロナ感染拡大の中、何か一つでもいいから、キーワードを設定し、自分で調べてみましょう。きっと新たな発見があることでしょうか。このような教育手法の主眼が「学生自身が自ら学ぶ」ということにあるのはいうまでもありません。新潟大学歯学部の教育の主役は、教員ではなく、皆さんです。

新潟大学歯学部は早くから教育改善を進め、全国歯科大学・歯学部の教育モデルケースとなっています。特に患者様の御協力を得て行う臨床実習は実践的な技能教育として高い評価を受け、臨床教育のフロントランナーとしての地位を得ています。さらに、大学院教育でも政府補助金に裏付けられた教育改善を進め、学部レベルから大学院レベルまで、高い教育の質を担保し続けています。研究面の評価の一つとして科学研究費助成金の採択があげられますが、この助成金の採択率も非常に高く、本学ではトップに位置しており、研究能力の高い教員が君たちの学習支援にあたります。また歯学部校舎改修に伴い、新たな実習設備が導入・整備され、学生諸君の技能教育に活用されています。各種教材の整備・充実にも努めており、高い学習効果をあげるため、環境整備にも努めています。これらの素晴らしい教育環境を積極的に活用し、自分の能力をさらに高めるよう努力して下さい。

勉強の話ばかりでしたが、20代前後のこの時期、勉強だけでなく、クラブ活動、ボランティア活動などさまざまな社会経験をし、歯学部以外にも多くの友人を作り、教養のある社会人となるような人間性を磨いてほしいと思います。新しい生活様式の下、これらの活動は現時点ではこれまでのようにできないかもしれませんが、簡単ではないからこそ、皆さんの柔軟な発想が求められ、アイデアが活かされる貴重な経験となります。そして、社会の期待に応える医療人を目指し、これから充実した学生生活を過ごし、卒業時に今年度新入生および保護者の皆様全員で喜びを分かち合いたいと思っています。



## 歯学部入学おめでとう

新潟大学医歯学総合病院 副病院長 小林 正 治

新潟大学歯学部歯学科ならびに口腔生命福祉学科の新入生の皆さん、ご入学誠にありがとうございます。皆さんは、令和という新しい時代の初めての新生入生です。特に今年は、新型コロナウイルスの感染への警戒という環境下での入学試験となりましたが、その中で日頃の学習の成果を発揮し、難関を突破された皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う措置として、心待ちにされていた入学式の中止を余儀なくされ、さらにはこの未曾有の事態の中での学生生活も様々な制限がかかる事態となり、新たな形での学びを始めることになりました。これはみなさん自身の人生にとっても、大きな転換点となるはずです。そして、こんな状況であるからこそ、自分自身をしっかりと見つめ直していただきたいと思います。

大学での生活は、皆さんがこれからの人生を生きていくための基礎を固める時期になります。高い志を持って、学業に励んでいただくことはもちろんですが、サークル活動やボランティア活動など様々な経験を通して、多くの人とかがわっていただきたいと思います。そして、自分のアイデンティティを確立してください。アイデンティティとは何か？「自分は何者か」「自分はどのように生きているのか」といった問いに対して「これこそが

本当の自分だ」といった実感のことを自我同一性と呼びます。これがアイデンティティの確立です。

皆さんは、ドクターXという医療ドラマをご存知でしょうか？昨年の秋に第6シーズンがテレビ放映されました。皆さんは、受験でそんなものを見ている暇はなかったかと思いますが、私が大好きなドラマの一つです。その中で、米倉涼子さん演じる主人公の大門道子の決め台詞が「私、失敗しないので」です。とても私には言えません。失敗しない人間などまずいないわけですが、このセリフに込められた「私は、絶対に失敗しないぞ」という覚悟が医療の現場では大事なのだと思います。そのためには、日頃から確かな知識と技量を積み重ねるとともに、心も鍛える必要があります。心を鍛えるとは、人を思いやる優しさや寛容さを身につけるだけではありません。自分の弱さを見つめる勇気も必要です。

是非、これからの学生生活の中で皆さんもいろいろなことを経験してください。チャレンジをしてください。失敗や挫折も人を大きくします。そして、様々なことをしっかりと考えて、人間性豊かな医療人としてのアイデンティティを確立してください。皆さんのこれからの活躍に期待するとともに、皆さんが楽しく充実した学生生活を送られることを願っています。